

芸術人間学		通年 4 単位	1年
芸術創造論		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	21世紀の芸術の在り方を追究するためには、芸術を、環境を形成する壮大なプロジェクトとみる新しい芸術観に基づく芸術創造の考察が必要である。芸術人間学は20世紀後半に企てられた新しい学問で、個別の芸術作品や様々な芸術現象の考察を通して人間を論ずる学問である。このことを多角的に理解することを目指す。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 序論－芸術人間学の定義</p> <p>第2回 西洋における創造論－「創世記」光あれ</p> <p>第3回 『古事記』の自然的創造論</p> <p>第4回 人間の創造－芸術家の創造行為、Instauration</p> <p>第5回 art の概念－動物のart と芸術家のart</p> <p>第6回 神の創造 (Creation) と人間の創造 (Instauration)</p> <p>第7回 現代の環境－技術連関と芸術 (コンピュータアート)</p> <p>第8回 芸術と価値－超越的価値との関わり</p> <p>第9回 灵感説－プラトンの『イオン』</p> <p>第10回 超越－孔子の芸術段階説</p> <p>第11回 芸術作品の層構造－スーリオの美学</p> <p>第12回 比較芸術論－芸術相互の比較</p> <p>第13回 東西の芸術比較－絵画の場合</p> <p>第14回 模倣から表現－逆現象の同時展開</p> <p>第15回 ディッセイニョの概念と芸術</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期のまとめと反復</p> <p>第2回 東洋の創造論－書道論に於ける創造の条件</p> <p>第3回 抽象絵画の提出した問題</p> <p>第4回 技術の歴史的展開と芸術</p> <p>第5回 抽象化と芸術創造－抽象と価値</p> <p>第6回 技術時代に於ける人間の存在－マルセルの芸術論</p> <p>第7回 神秘と問題、所有と存在－技術の弊害を克服する芸術</p> <p>第8回 神秘と秘密－ジャンケレヴィチの芸術論</p> <p>第9回 即興演奏－価値との遭遇</p> <p>第10回 芸術批評－ラスキンとリード</p> <p>第11回 ラオコーン群像－レッシングの場合</p> <p>第12回 詩画論の歴史</p> <p>第13回 時間と芸術－造形芸術と時間 (ヴェルギリウスの詩)</p> <p>第14回 現代における時間論</p> <p>第15回 芸術人間学のまとめ</p>	
進め方	講義形式で行う。必要に応じてレポートを課する。 必ず出席すること。		
テキスト	プリントを配りそれを読むこともある。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:35% レポート:5%		

美学 I		前期 2 単位	2年
Calonologia研究		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	美は芸術作品だけが具現する価値なのか。否、人間は芸術ばかりでなく、自然、技術的な機械、人間の行為等にも美を見い出す。講義では古代からヘーゲルまでの美学の諸論を紹介し、最後に、現代に於ける美学をカロノロジア (Calonologia) として、その方向性を論ずる。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 序論－美学の定義</p> <p>第2回 美学の始まり－バウムガルテンの感覚重視の美学</p> <p>第3回 日本に於ける美学－「美学」の語の翻訳の問題－西周</p> <p>第4回 カロカカキアからカロカガティアへ－ホメロス</p> <p>第5回 ギリシア悲劇</p> <p>第6回 プラトンの「美の学」と灵感説</p> <p>第7回 アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と『詩学』</p> <p>第8回 ヴェリギリウス『アエネイス』とローマの美学</p> <p>第9回 中世美学の特徴－超越と光</p> <p>第10回 象徴の美学－象徴解釈の問題</p> <p>第11回 トマスの超越論－キリスト教的美学</p> <p>第12回 フランスの合理主義美学－数と「真実らしさ」</p> <p>第13回 カント美学－崇高論と天才論</p> <p>第14回 ドイツ観念論美学－シェリングとヘーゲル</p> <p>第15回 カロノロジアにむけて</p>		
進め方	古典古代のプラトンは超越的なアイデアを目指す“美 (ト・カロン) の学”を最高の学とした。つまり18世紀の“美学”成立以前に美を論じた理論“美の学”はあった。講義では古代から現代までの美についての諸論を紹介し、最後に現代に於ける美学をカロノロジア (Calonologia) として、これを論ずる。講義形式で行うが、レポートも必要に応じて		
テキスト	今道友信編『講座美学』1 美学の歴史 (東京大学出版会) 絶版の場合プリントを使う。	参考文献	今道友信著『美について』(講談社現代新書)
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:35% レポート:5%		

美学Ⅱ		後期 2 単位	2年
ヘーゲル以後の美学		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	「美学Ⅰ」を受けて精神の精華としての芸術作品を考察しながら、ヘーゲル以後に論じられた現在に至るまでの美学を論ずる。中心は「現代の美学」であるが、その特徴は様々な美学が並存していることにある。なるべくわかりやすくそれらを論じることを目指す。		
授業計画	【後期】 第1回 序論－ヘーゲル以前の美学のまとめと展望 第2回 「下からの美学」実験美学と社会学的美学 第3回 感情移入説－リップス 第4回 芸術学と歴史研究－ウーティッツ 第5回 ニーチェの生の美学－陶酔 第6回 日本の美学－世阿弥の『風姿花伝』とその展開 第7回 批評－レッシングからリードへの変遷 第8回 創造美学－創造と創建 第9回 カッシーラーの象徴論 第10回 現象学的美学－インガルデン『文学的芸術作品』 第11回 機械と芸術－共生と補完 第12回 集団的創造－共創造(Co-creation) 第13回 芸術の解釈－リクールとガーダマー 第14回 享受美学－アドルノ 第15回 美学の将来		
進め方	講義形式で行う。必要に応じて、レポートを課する。必ず出席すること。		
テキスト	今道友信編『講座美学』1 美学の歴史、絶版の場合にプリントを使用する。	参考文献	適宜授業中に紹介する。
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:35% レポート:5%		

美術史Ⅰ		通年 4 単位	1年
西洋美術の流れ		大野 芳材 (おおの よしき)	
ねらい	ピカソやマティスなど現代の画家の斬新な表現は、古代のギリシア・ローマ美術など、過去の美術作品を熱心に研究する過程から生まれた。この講義では、「伝統と革新」という視点から、西洋美術の歴史を古代から現代の初めまで、具体的な作品を通して考えることにしたい。		
授業計画	【前期】 第1回 1年間の講義についてのイントロダクション。 第2回 古代ギリシア彫刻 第3回 古代ローマの美術 第4回 キリスト教の誕生と美術 第5回 ロマネスクの建築と美術 第6回 ゴシックの建築(大聖堂)と美術 第7回 14世紀のイタリア美術 第8回 初期ルネサンス美術 第9回 ボッティチェッリと神話画 第10回 レオナルド 第11回 ラファエロ 第12回 ミケランジェロ 第13回 ファン・エイクと北方の美術 第14回 マニエリスム 第15回 試験	【後期】 第1回 ヴェネツィアの美術 第2回 バロック美術Ⅰ 第3回 バロック美術Ⅱ 第4回 ロココ美術 第5回 ダヴィッドとナポレオン 第6回 ドラクローワとロマン主義美術 第7回 コローとバルビゾン派 第8回 クールベとマネ 第9回 印象派展と画家たち 第10回 モネ 第11回 ゴッホとゴーギャン 第12回 シスレーとセザンヌ 第13回 ルドンと象徴主義 第14回 マティスとピカソ 第15回 試験	
進め方	スライドやビデオを用いた講義。時に応じて、展覧会や美術館見学を行う。また、参加者による発表も織り交ぜる。		
テキスト	高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』(新書館)	参考文献	『世界美術大全集』(小学館)など、授業中に指示。
評価方法	試験:60% 展覧会レポート:20% 出席・発表点:20%		

美術史Ⅱ		前期 2 単位	2年
日本美術にみる動物表現の変遷		石田 佳也 (いしだ よしや)	
ねらい	日本美術史における絵画の主な題材として、山水、人物、花鳥などと並んで、走獣（動物）が挙げられる。今回の講義では、はじめに日本絵画史の基礎事項を確認し、次に実際の屏風や絵巻の中に、動物がどのように描かれて来たのかについて、さまざまな画家の作例を比較しながらその実態に迫り、その意義を考察してゆきたい。		
授業計画	【前期】 第1回 授業内容のガイダンス 第2回 日本絵画史の基礎事項（1）画面形式 第3回 日本絵画史の基礎事項（2）画家と流派 第4回 日本絵画史の基礎事項（3）技法と用語 第5回 日本絵画史における動物表現の概観 第6回 動物表現の諸様相 ウサギ～鳥獣戯画の世界 第7回 動物表現の諸様相 サル～水墨画の主人公 第8回 動物表現の諸様相 ライオン～宗教絵画の名脇役 第9回 動物表現の諸様相 ゾウ～見立て絵について 第10回 動物表現の諸様相 シカ～琳派のお家芸 第11回 動物表現の諸様相 ウシとウマ～暮らしと動物 第12回 動物表現の諸様相 リュウとトラ～武将好みの動物 第13回 動物表現の諸様相 イヌとネコ～愛玩動物たち 第14回 動物表現の諸様相 近現代の展開とこれからの可能性 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心となるが、作品のスライドを毎回映写する予定である。関連作品を含む展覧会などが開催される場合は見学の機会を設けたい。		
テキスト	とくに定めない。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:50% レポート:50%		

芸術論演習		通年 4 単位	1年
美学と美術史の基礎演習		大野 芳材 (おおの よしき) 橋本 典子 (はしもと のりこ)	
<p>美学・哲学及び美術史とは、それぞれどのような学問であるかを、基礎的な文献を読んだり、発表や討論を通じて理解することを目標とする。</p> <p>前期：すべての学生はふたつのグループに分かれて、それぞれ美学・哲学及び美術史の基礎を学ぶ。</p> <p>後期：それぞれの関心に応じてふたつの分野のいずれかを選択して、問題意識をより深く、知識をより確実なものにする。</p> <p>夏休みには、指定された書物のうち1冊を選んでレポート（10枚程度）を作成しなければならない。提出日は、夏休み後の第1回目の授業のときである。</p> <p>学生参加型の授業で、全出席がレポート提出の条件である。</p> <p>学年の最後に美学・哲学あるいは美術史の課題レポート（10枚程度）を課する。</p>			

芸術論演習		通年 4 単位	1年
美学・哲学		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	芸術作品の創造や観照のための基礎的な芸術理論を学ぶ。自分の考えを芸術作品に結晶化させるため、また芸術的傑作等の作品を解釈するために、学生が自分の感覚や“知”を育てることのできる基礎的な考えを紹介する。後期には芸術論の基礎的文献を読み、芸術作品の論理的解釈の意味を理解することを目指す。		
授業計画	【前期】 第1回 序論－芸術論演習の基本的考え方 第2回 テキスト購読と導入的説明－テキスト1 第3回 テキスト購読と解釈－テキスト1 第4回 テキスト購読と解釈－テキスト2 第5回 テキスト購読と解釈－テキスト3 第6回 テキスト購読と解釈1－テキスト4 第7回 テキスト購読と解釈2－テキスト4 第8回 テキスト購読と導入的説明－テキスト1 第9回 テキスト購読と解釈－テキスト1 第10回 テキスト購読と解釈－テキスト5 第11回 テキスト購読と解釈－テキスト6 第12回 テキスト購読と解釈1－テキスト7 第13回 テキスト購読と解釈2－テキスト7 第14回 テキスト購読と論文へのまとめ方 第15回 まとめ	【後期】 第1回 序論－芸術を論ずることの意味 第2回 テキスト購読と解釈1 第3回 テキスト購読と解釈2 第4回 テキスト購読と解釈3 第5回 テキスト購読と解釈4 第6回 テキスト購読と解釈5 第7回 テキスト購読と解釈6 第8回 テキスト購読と解釈7 第9回 論文やレポートの書き方とその例示 第10回 テキスト購読と発表の仕方の例示 第11回 テキストと連関する参考文献の具体的例示 第12回 テキスト購読と解釈8 第13回 テキスト購読と解釈9 第14回 テキスト購読と解釈10 第15回 まとめと展望	
進め方	前期は、テキストを選びそれを購読し、書かれている内容を理解してもらう。そのために各テキストについて簡潔に説明をする。テキストはその都度選び1から7まですべて異なる。後期は、1冊の書物から適宜に1章をテキストとしてプリントし、それを深く読むことを訓練する。全出席がレポート提出の条件である。		
テキスト	テキストはプリントを使う。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	出席及び授業参加態度:40% レポート学年末及び夏休み:60%		

芸術論演習		通年 4 単位	1年
美術史の論文の調べ方と読み方		大野 芳材 (おおの よしき)	
ねらい	前期はゴッホやピカソなど、よく知られた芸術家を取り上げて、美術史を学ぶことが人間の知的活動、芸術行為にどの様な意味を持つかを考える。展覧会にも出かけ、できるだけ多くの作品に接する機会を作りたい。後期は日本人研究者の論文を題材に、美術史的な問題の取り上げ方や論理の進め方、資料の扱い方などを、発表や討論を通して学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 Bグループ第一論文の読解と解釈(1) 第3回 Bグループ第一論文の読解と解釈(2) 第4回 Bグループ第二論文の読解と解釈(1) 第5回 Bグループ第二論文の読解と解釈(2) 第6回 Bグループ第三論文の読解と解釈(1) 第7回 Bグループ第三論文の読解と解釈(2) 第8回 Bグループ第三論文の読解と解釈(3) 第9回 Aグループ第一論文の読解と解釈(1) 第10回 Aグループ第一論文の読解と解釈(2) 第11回 Aグループ第二論文の読解と解釈(1) 第12回 Aグループ第二論文の読解と解釈(2) 第13回 Aグループ第三論文の読解と解釈(1) 第14回 Aグループ第三論文の読解と解釈(2) 第15回 Aグループ第三論文の読解と解釈(3)	【後期】 第1回 後期のイントロダクション 第2回 第一論文の読解と解釈(1) 第3回 第一論文の読解と解釈(2) 第4回 第一論文の読解と解釈(3) 第5回 第二論文の読解と解釈(1) 第6回 第二論文の読解と解釈(2) 第7回 第二論文の読解と解釈(3) 第8回 第三論文の読解と解釈(1) 第9回 第三論文の読解と解釈(2) 第10回 第三論文の読解と解釈(3) 第11回 第四論文の読解と解釈(1) 第12回 第四論文の読解と解釈(2) 第13回 第四論文の読解と解釈(3) 第14回 第五論文の読解と解釈(1) 第15回 第五論文の読解と解釈(2)	
進め方	前期は学生を二つのA、Bグループに分けて、半分ずつ美学と美術史を学ぶ。後期は学生が美学と美術史に関心に応じて選択し、前期の成果を踏まえて、より深い内容を学ぶ。		
テキスト	授業でプリントを配布。	参考文献	高階秀爾『名画を見る眼』上下(岩波新書)など、講義中に指示。
評価方法	レポート(4000字程度):70% 展覧会レポート:15% 出席点:15%		

芸術各論Ⅰ		前期 2 単位	2年
芸術の諸相		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	芸術の多面的構造を理解し、芸術の理念及び内在的意味と周辺的な個別芸術のもつそれぞれの独自性を論理的に明らかにする。総合的に芸術を考察することを目的とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論－諸芸術の関係と展開 第2回 芸術とは何か－芸術と価値 第3回 芸術のアナログン－芸術の意味の多様性 第4回 芸術の分類－分類の歴史 第5回 芸術の起源－芸術と宗教 第6回 日本の芸能－能と歌舞伎、それぞれの特徴 第7回 能と歌舞伎の構造的関係と双極性－比較研究 第8回 日本の芸術における「間」 第9回 日本の芸術における否定性の問題 第10回 造形芸術1－絵画、抽象芸術の意味 第11回 造形芸術2－彫刻、新しい造形化 第12回 デザイン－デザインの革新的展開 第13回 都市論－建築美学と現代都市 第14回 芸術の将来 第15回 まとめ		
進め方	講義形式で行う。2年生であるので、卒業研究に向けて、自分で選択した研究課題と連関させて考えることを目指している。必ず出席すること。		
テキスト	今道友信編『講座美学』4 芸術の諸相 (東京大学出版)	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:30% レポート:10%		

芸術各論Ⅱ		後期 2 単位	2年
ポスト印象主義からシュールレアリスムまで		大野 芳材 (おおの よしき)	
ねらい	美術史Ⅰを受けて、19世紀末から20世紀前半までのヨーロッパの美術を考える。この時代には斬新な美術表現が次々と生み出されたが、その表現の特徴とともにそれらが生み出された社会的・文化的背景について検討したい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション、発表の割り当て 第2回 ゴッホ 第3回 ゴーガン 第4回 スーラと新印象主義 第5回 ロートレックと世紀末美術 第6回 ルドンと象徴主義 第7回 シャガール 第8回 藤田とエコール・ド・パリ 第9回 ピカソ 第10回 マチス 第11回 ムンクとクリムト 第12回 日本の留学生たち 第13回 カンディンスキーとクレー 第14回 ダリとシュールレアリスム 第15回 予備日		
進め方	図像を用いた講義に、参加者による発表を交えて授業を行う。展覧会見学もやりたい。		
テキスト	講義のなかで指示。	参考文献	講義のなかで指示。
評価方法	期末レポート:50% 展覧会見学レポート:20% 発表:30%		

芸術文献講読		通年 2 単位	2年
英語文献の読解		田中 佳 (たなか けい)	
ねらい	芸術について英語で書かれた文献の内容を正確に読み取り、個々の勉強や研究に活用できるようになることを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション 第2回 「印象主義」1 第3回 同上2 第4回 同上3 第5回 同上4 第6回 同上5 第7回 同上6 第8回 同上7 第9回 個々の研究テーマに応じた項目1 第10回 同上2 第11回 同上3 第12回 同上4 第13回 同上5 第14回 同上6 第15回 試験	【後期】 第1回 個々の研究テーマに応じた項目7 第2回 同上8 第3回 同上9 第4回 同上10 第5回 同上11 第6回 同上12 第7回 同上13 第8回 同上14 第9回 同上15 第10回 同上16 第11回 同上17 第12回 同上18 第13回 同上19 第14回 同上20 第15回 試験	
進め方	美術事典(The Oxford companion to art)の中からいくつかの項目を選んで読んでいきます。あらかじめ訳の担当を割り振り、授業で読み上げてもらい、全員で内容を検討します。受講者の関心になるべく沿った項目を選びたいと思います。		
テキスト	The Oxford companion to art. 必要な箇所のプリントを配布します。	参考文献	授業中に随時紹介します。
評価方法	平常点:70% 試験:30%		

美学・美術史演習		後期 1 単位	2年
美術史の方法論		大野 芳材 (おおの よしき)	
ねらい	美術史とは何を学ぶ学問か。歴史を学ぶことが、どうして美術の理解に役立つと言えるのか。美術作品の鑑賞や質疑を通して、こうした問題意識を深め、自分なりの答えを見つけられるようにしたい。最終的な目標は、論文の内容を豊かにすること。		
授業計画	【後期】 第1回 INTRODUCTION. 各自の問題意識の確認 第2回 美術館見学 (1) 第3回 文献研究 (1) 第4回 文献研究 (2) 第5回 文献研究 (3) 第6回 美術館見学 (2) 第7回 文献研究 (4) 第8回 文献研究 (5) 第9回 文献研究 (6) 第10回 美術館見学 (3) 第11回 文献研究 (7) 第12回 文献研究 (8) 第13回 美術館見学 (4) 第14回 文献研究 (9) 第15回 文献研究 (10)		
進め方	参加者に担当論文を与え、そのレジュメ作り、発表、討論、というかたちで進めたい。また、美術館見学を行い、作品の前で作品について語ってもらおう。		
テキスト	授業で指示。	参考文献	授業で指示。
評価方法	レポート (2000字程度) :60% 発表点:20% 出席点:20%		

美学・美術史演習		後期 1 単位	2年
研究論文作成演習		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	哲学、美学、個別芸術論、文化論等で卒業論文を書く学生が読むべきテキストを紹介し、そのうちのいくつかのテキストを読んでいく。卒業論文を書くに当たってのテキスト選択、読解、解釈の方法を身につけることを狙いとする。		
授業計画	【後期】 第1回 序一論文作成計画、共通購読テキスト決定 第2回 共通テキストの導入講義 第3回 テキストに関わる資料の紹介、テキスト購読と解釈1 第4回 テキスト購読と解釈2 第5回 テキスト購読と解釈3 第6回 テキスト購読と解釈4 第7回 テキスト購読と解釈5 第8回 テキスト購読と解釈6 第9回 テキスト購読と解釈、発表1 第10回 テキスト購読と解釈、発表2 第11回 テキスト購読と解釈、発表3 第12回 テキスト購読と解釈、発表4 第13回 テキスト購読と解釈、発表5 第14回 テキスト解釈と発表との連関 第15回 まとめ、共通テキストの研究発表		
進め方	テキストを少しずつ読み進め、適宜受講生に該当箇所について調べ発表してもらう。必ず出席すること。授業に参加することが条件となる。		
テキスト	卒業研究の対象になっている文献を読解し、様々な角度から研究を進める。	参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	レポート:40% 出席及び授業参加態度:50% 発表:10%		

構成論 I		後期 2 単位	1年
「人間と芸術表現」		淀井 彩子 (よどい あやこ)	
ねらい	現代に生きる私達にとって芸術とは何か。私達はどのような芸術表現に出会い、自らの作品表現に結びつけることができるのか。「構成I」で造形表現の基礎実習をとおして取りくむ「人間にとって表現とは何か」という課題に、奥行きのある広い視野を加え芸術表現の本質を共に考えていきたい。		
授業計画	【後期】 第1回 学生自身が知る芸術家名を聞く 第2回 芸術作品とその作者 第3回 絵画、彫刻、建築の関係 第4回 印象派とその後 セザンヌから 第5回 印象派とその後 マチスを中心に 第6回 印象派とその後 ピカソの作品変化 第7回 ビデオ「ミステリアス ピカソ」を観る 第8回 ピカソと同時代の日本人作家 第9回 女性美術家を見つける 第10回 女性美術家の仕事 第11回 ビデオ 女性美術家を扱った作品を観る 第12回 学生自身の造形表現を聞く 第13回 芸術と出会う場、空間 第14回 人間と芸術表現 (先史美術から現代へ) 第15回 まとめ		
進め方	カラーコピー図版、画集、スライド、ビデオのいずれかで視覚的に理解を助けながら講義を進める。美術館、画廊での授業に関連した展覧会の紹介、鑑賞を組みこみレポート提出により理解を進める。		
テキスト		参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	定期試験・レポート:50% 出席:50%		

構成論Ⅱ		前期 2 単位	2年
社会と芸術／抽象造形		趙 慶姫（ちょう きょんひ）	
ねらい	構成は、形体・色彩・材質といった、造形に普遍に存在する要素を探求していく、全ての芸術表現の基礎となる造形理念で、20世紀初頭に新しい抽象造形運動として登場し、特にデザインにおいて重要な役割を担ってきた。前半はその歴史をなぞり、社会と芸術の関わりを考える。後半は造形原理について学び、表現力や鑑賞力を高めることをねらう。		
授業計画	【前期】 第1回 導入／構成とは 第2回 近代以降の産業と芸術 第3回 構成主義 第4回 パウハウス1 第5回 パウハウス2 第6回 芸術と技術 第7回 現代社会とデザイン 第8回 抽象造形 第9回 形体 第10回 色彩 第11回 材質・テクスチャ 第12回 運動・光・空間 第13回 造形の秩序 第14回 造形の心理 第15回 まとめ		
進め方	作品例、図版などスライドを多く用いる。講師自身の造形活動の経験を活かした講義にしたい。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:50% 試験・レポート:50%		

基礎実技	前期 2 単位	1年
	阿久津 光子 (あくつ みつこ) 趙 慶姫 (ちよう きょんひ)	
<p>【ねらい】 実技を通して、芸術表現の意味や可能性についての総合的な基礎を学ぶ。本学科の実技系専任教員が複数で担当する、他学科にも開かれた実習科目である。</p> <p>【授業内容】 対象を深く観察することは全ての表現の基礎である。観察することから得られる内的感動は、その表現の可能性を無限に展開させてくれる。具体的には、デッサン、色彩表現、実験的な展開の順序で進める。「静物」をモチーフとして、モチーフ個々の特性やそれら相互がつくり出す全体的な空間の構造等を主観的に読みとり、新たな内的表現の可能性を探求する。制作する作品は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デッサン (鉛筆、木炭、墨等) 3点。 2. 色彩表現 (グワッシュ等) 1点。 3. 展開 (コラージュ等) 1点。 <p>【進め方】 各段階ごとに講評を行い、学生自身が自らの制作を通じて探求を進められるよう、うながす。</p> <p>【評価方法】 途中の講評および全体講評会での総合評価による。 作品点 50% 出席点 50%</p>		

基礎実技	前期 2 単位	1年
	阿久津 光子 (あくつ みつこ) 淀井 彩子 (よどい あやこ)	
<p>【ねらい】 実技を通して、芸術表現の意味や可能性についての総合的な基礎を学ぶ。本学科の実技系専任教員が複数で担当する、他学科にも開かれた実習科目である。</p> <p>【授業内容】 対象を深く観察することは全ての表現の基礎である。観察することから得られる内的感動は、その表現の可能性を無限に展開させてくれる。具体的には、デッサン、色彩表現、実験的な展開の順序で進める。「静物」をモチーフとして、モチーフ個々の特性やそれら相互がつくり出す全体的な空間の構造等を主観的に読みとり、新たな内的表現の可能性を探求する。制作する作品は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デッサン (鉛筆、木炭、墨等) 3点。 2. 色彩表現 (グワッシュ等) 1点。 3. 展開 (コラージュ等) 1点。 <p>【進め方】 各段階ごとに講評を行い、学生自身が自らの制作を通じて探求を進められるよう、うながす。</p> <p>【評価方法】 途中の講評および全体講評会での総合評価による。 作品点 50% 出席点 50%</p>		

基礎実技	後期 2 単位	1年
	趙 慶姫 (ちょう きょんひ) 淀井 彩子 (よどい あやこ)	
<p>【ねらい】 実技を通して、芸術表現の意味や可能性についての総合的な基礎を学ぶ。本学科の実技系専任教員が複数で担当する、他学科にも開かれた実習科目である。</p> <p>【授業内容】 対象を深く観察することは全ての表現の基礎である。観察することから得られる内的感動は、その表現の可能性を無限に展開させてくれる。具体的には、デッサン、色彩表現、実験的な展開の順序で進める。「静物」をモチーフとして、モチーフ個々の特性やそれら相互がつくり出す全体的な空間の構造等を主観的に読みとり、新たな内的表現の可能性を探求する。制作する作品は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デッサン (鉛筆、木炭、墨等) 3点。 2. 色彩表現 (グワッシュ等) 1点。 3. 展開 (コラージュ等) 1点。 <p>【進め方】 各段階ごとに講評を行い、学生自身が自らの制作を通じて探求を進められるよう、うながす。</p> <p>【評価方法】 途中の講評および全体講評会での総合評価による。 作品点 50% 出席点 50%</p>		

構成 I	通年 6 単位	1年
<p>【担当教員】 阿久津 光子 (あくつ みつこ)、麻生 マユ (あそう まゆ)、傍嶋 康博 (そばじま やすひろ)、趙 慶姫 (ちょう きょんひ)、淀井 彩子 (よどい あやこ)</p> <p>【ねらい】 平面、立体にわたる総合的な実習により、造形表現の基礎を体得する。</p> <p>【授業内容】 この実習を通して、人間にとって「表現とは何か」という基本的な課題にとりくむことになる。まず自己の問題としてとらえることから始め、更には視野を広げて普遍的な芸術全般の今日的な意義についても考える基礎を築いていく。展覧会鑑賞を含む。</p> <p>【前期】 絵画／人物油絵 50号 1点。人物デッサン。 彫塑／人物頭像 1点。 デザイン／抽象による平面作品 3点 (B2判)。 織／色糸による平面表現 (基礎織) 1点。</p> <p>【後期】 絵画／人物油絵 60号 1点。人物デッサン。木版画。 彫刻／木彫作品 1点。 デザイン／抽象による平面作品 2点 (B2判)。抽象的立体作品 2点 (油土・紙) 織／織作品 (応用表現：45×60cm) 1点。</p> <p>【進め方】 毎週月・火の I・II 限を通して実習する。前期は、絵画・彫刻・デザイン・織を全体的に学び、後期には、織を加えた4つの領域から自由に二分野を選択して、2年次の専攻の基礎を築く。</p> <p>【評価方法】 作品完成ごとに各分野にて講評を行なうが、更に前期末と学年末の年2回にわたり、本学科の全専任教員および全実技系教員により、学生1人ずつの合同講評会を行い総合評価をする。 作品点 50% 出席点 50%</p>		

構成Ⅱ	前期 3 単位	2年
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、傍嶋 康博（そばじま やすひろ）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）、淀井 彩子（よどい あやこ）</p> <p>【ねらい】 構成Ⅰの総合的基礎を更に進め、専門をしぼって展開する。</p> <p>【授業内容】 絵画・デザイン・織の全ての領域において「人間」を基礎とする造形表現を指向する。展覧会鑑賞を含む。尚、卒業研究の論文系・制作系共に共通の課題を制作するが、各専門の内容は次の通りである。</p> <p>制作系 <絵画> 人物油絵60号2点および静物20号1点。エッチング。 <デザイン> 抽象による平面作品5点（B全判）および立体造形作品（紙）。 <織> 「自然」をテーマとする織造形。（80cm×120cm1点および70cm×90cm1点）</p> <p>論文系 <絵画> 人物油絵40号以上2点および静物15号以上1点。エッチング。 <デザイン> 抽象による平面作品5点（B2判以上）および立体造形作品（紙）。 <織> 「自然」をテーマとする織造形。（60cm×80cm1点および50cm×60cm1点）</p> <p>【進め方】 自分の選択した専門を実習するが、専門を深めるために授業時間外の自主的な制作は欠かせない。ここで後期の進捗に向けて「表現とは何か」について各自のテーマが築かれることが望まれる。</p> <p>【評価方法】 作品完成ごとに各分野にて講評を行なうが、前期末に本学科の全専任教員および全実技系教員により、学生1人ずつの合同講評会を行ない総合評価をする。 作品点 50% 出席点 50%</p> <p>【履修条件】 構成Ⅰの合格者のみ履修できる。</p>		

構成Ⅲ	後期 3 単位	2年
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、傍嶋 康博（そばじま やすひろ）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）、淀井 彩子（よどい あやこ）</p> <p>【ねらい】 卒業作品を制作する。</p> <p>【授業内容】 構成Ⅱの展開であり後期からの卒業制作と連携した科目で、各専攻共に卒業研究<制作>の要領に基づいて、様々な実験的探究の習作から始め、完成された「作品」にまで高めた制作を行なう。具体的な内容は卒業研究<制作>の科目に提示してある通り。</p> <p>【進め方】 各専攻ごとにテーマに応じて個別指導のかたちで進める。授業時間外の自主的な制作が欠かせないのは構成Ⅱと同じである。</p> <p>【評価方法】 主として習作から卒業制作までの探究過程を評価する。</p> <p>【履修条件】 構成Ⅱの合格者のみ履修できる。</p> <p>【評価方法】 作品点 50% 出席点 50%</p>		

建築論		後期 2 単位	1年
建築の歴史を通して、様式の発展、技術革新、建築のタイプや装飾の展開をみる。さらに建築という対象から、それを生み出した人々の文化や芸術表現を読み取る。		加藤 耕一（かとう こういち）	
ねらい	小さな部屋のインテリアから巨大な都市まで、幅広い対象を採り上げながら、絵画・ステンドグラス・彫刻など、さまざまな装飾、デザインおよびそれによってつくり出される空間について学ぶ。総合芸術としての建築に興味を持って学習してほしい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 建築論で何を学ぶか？ ヨーロッパ建築の歴史と現代 第2回 ヨーロッパ建築の起源／エジプトからギリシアまで 第3回 古典主義様式の成立／古代ギリシアとローマ 第4回 初期キリスト教建築とビザンチン様式 第5回 イスラムの建築と都市／地中海文明とイスラム世界 第6回 カロリング・ルネサンスからロマネスクへ 第7回 ロマネスク様式の終焉とゴシック様式の誕生 第8回 ゴシック建築の発展と中世都市 第9回 ルネサンス建築／ゴシックvs.クラシック 第10回 マニエリスムとルネサンスの伝播 第11回 バロックとロココ／バロックの形態と装飾 第12回 近代の始まりと歴史主義 第13回 鉄とガラスの建築の誕生 第14回 インテリアの歴史とアール・ヌーヴォー 第15回 まとめ		
進め方	毎回の講義では、多数の建築写真を紹介しながら進めていく。少しでも建築空間を疑似体験してもらうようにしたい。また、各回のテーマに関連して参考文献を紹介するので、1冊でも2冊でも本を読み、文章からも建築を体験してもらいたい。		
テキスト	日本建築学会編「西洋建築史図集」彰国社	参考文献	適宜、授業中に指示する
評価方法	出席:20% 小レポート:30% 最終レポート:50%		

文学論		前期 2 単位	1年
文学作品の読み方		池田 孝一（いけだ こういち）	
ねらい	アメリカの小説家 F. スコット・フィッツジェラルドの代表作『偉大なギャツビー』（1925）の翻訳を精読しながら、文学作品の色々な見方を学習する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 文学作品をどう読むか 第2回 『偉大なギャツビー』講読（1） 第3回 『偉大なギャツビー』講読（2） 第4回 『偉大なギャツビー』講読（3） 第5回 映画『華麗なるギャツビー』鑑賞及び討論（1） 第6回 映画『華麗なるギャツビー』鑑賞及び討論（2） 第7回 作品論 第8回 読者論的な読み方 第9回 精神分析的な読み方 第10回 歴史的な読み方 第11回 ジェンダー論的な読み方 第12回 その他の読み方（1） 第13回 その他の読み方（2） 第14回 まとめと討論 第15回 試験		
進め方	出席者各自がテキストを精読してきたことを前提にした講義と質疑応答の形式で行う。		
テキスト	F. スコット・フィッツジェラルド『偉大なギャツビー』（集英社文庫）	参考文献	授業時に適宜指示する。
評価方法	質疑応答:50% 試験（テキスト・ノート持込可）:50%		

音楽論		後期 2 単位	1年
音楽美学入門		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	音楽を思想の結晶の現われとみることによって、芸術としての音楽に内在する美を探る音楽美学を論ずる。具体的にはバッハの時代の音楽論から現代の音楽美学の展開を理解することを旨とする。		
授業計画	【後期】 第1回 序論、音楽美学と音楽史 第2回 ミュースの女神と芸術 第3回 笛と琴、ゲオルギア・アデスの音楽論 第4回 ビタゴラスの音楽論、数と音楽ーハルモニア 第5回 記譜法の歴史 第6回 楽譜と音響、音楽の在り方の問題 第7回 教会音楽と世俗音楽、グレゴリア聖歌 第8回 言葉と音楽、模倣から表出へ 第9回 無限の憧憬、器楽の優位ーソナタ 第10回 自律的音楽美学、ハンスリックの『音楽美学』 第11回 音楽の存在ー音と価値 第12回 音楽的時間、ジゼル・ブルレの音楽美学 第13回 演奏と音楽解釈、演奏論 第14回 ジャンケレヴィッチのドビュシー解釈 第15回 音楽美学の将来		
進め方	今年、西洋に於ける音楽の現象と音楽理論の歴史を論じた後に、音楽美学入門として音楽の美について、自律的音楽美学を論じたハンスリックとその後の展開を論じる。授業は講義形式であるが、必要に応じて音楽作品を聴く。		
テキスト	今道友信編『講座美学』4 芸術の諸相(東京大学出版会) 絶版の場合はプリントを使う。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	試験:55% 出席及び受講態度:35% レポート:10%		

演劇論		後期 2 単位	2年
演劇の享受と解釈		曾根 幸子 (そね さちこ)	
ねらい	演劇とはどのような世界を構築し、わたしたちに何をもちたしてくれようのか、そして現代に生きるわたしたちにとって過去の偉大な作品がどのようによみがえり、それらがいかに意味あるものとして味わうことができるかを考える。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンスー演劇とはなにか 第2回 ギリシャ悲劇ーオイディプス王 第3回 ギリシャ悲劇ー女王メディア、トロイアの女 第4回 シェークスピアーハムレット(1) 第5回 シェークスピアーハムレット(2) 第6回 シェークスピアー悲劇と喜劇 第7回 フランス古典劇ーアンドロマック 第8回 近代演劇ー人形の家、桜の園 第9回 プレヒトー三文オペラ 第10回 第二次大戦後の演劇ー欲望という名の電車 第11回 不条理演劇ーゴドーを待ちながら 第12回 日本の近代演劇ー能、狂言 第13回 日本の近代演劇ー文楽、歌舞伎 第14回 日本のアングラ演劇 第15回 まとめと発表		
進め方	講義が中心となるが、受講者の意見や感想を求めることもある。最初の授業で履修者の意見を聞き、授業内容の修正をする。毎回、参考となる映像資料を提示する。		
テキスト	教科書は用いず、プリント資料を配布する。	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	課題1:演劇鑑賞の感想:30% 課題2:戯曲を読んで:40% 出席状況:30%		

映像論		後期 2 単位	2年
映像の歴史と映像表現の批評		濱崎 好治 (はまさき こうじ)	
ねらい	幅広い映像を見ることによって、映像の記録性、表現力について批評する方法を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 写真と動く映像の誕生 第2回 20世紀初頭のハリウッド映画 第3回 映画の記録性と表現力 第4回 記録映画と物語映画 第5回 映画の文法 (カメラワークとモンタージュ) 第6回 映画の批評 (リアリズム) 第7回 映画の批評 (作家主義) 第8回 テレビ的表現とは何か 第9回 テレビの批評 第10回 日本のコマーシャル ('60年代〜' 70年代) 第11回 世界のコマーシャル ('80年代〜' 90年代) 第12回 マンガ・アニメの表現力 第13回 アートとしての映像表現 第14回 コンピュータグラフィックの表現 第15回 デジタル映像の可能性		
進め方	本講義は毎回映像を見ながら解説する。		
テキスト	プリントを配布。	参考文献	授業中に紹介。
評価方法	出席:20% レポート:80%		

芸術学特講 I (芸術と宗教)		前期 2 単位	2年
芸術の起源を考える。		樋笠 勝士 (ひかさ かつし)	
ねらい	芸術と宗教。両者については誰もが何の関係もないと考えるであろう。しかし歴史を見て分かるように「芸術」と呼ぶ我々の常識的知識や価値観が誕生したのは西洋近代なのであり、200年くらいしか経ってないことが明らかである。それ以前の歴史を眺めて見えてくるのは、そもそも、芸術の起源は「宗教」であったということである。本講座では、古代か		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 芸術の起源と宗教の起源・・・授業の俯瞰図 第3回 「芸術」とは何か・・・近代の概念規定 第4回 「芸術」とは何か・・・古代中世の概念規定 第5回 「『芸術』とは何か」の問いの意味 第6回 「芸術家」「芸術作品」「鑑賞」といった概念の意味 第7回 芸術の起源を問うことの意味 第8回 起源にある「宗教」の様態 第9回 芸術と宗教の本質的な関係1 (以下、理論領域の講義) 第10回 芸術と宗教の本質的な関係2 第11回 芸術と宗教の本質的な関係3 第12回 芸術と宗教の本質的な関係4 (以下、事例研究) 第13回 芸術と宗教の本質的な関係5 第14回 芸術と宗教の本質的な関係6 第15回 総括		
進め方	講義中心であるが、学生の見解もとり入れて、問題の共有を図りたい。人数次第ではゼミ形式を採用したい。		
テキスト	授業中に紹介する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	試験:70% 出席点・平常点:30%		

芸術学特講Ⅱ（芸術と思想）		後期 2 単位	2年
芸術と思想の有機的関係を問う。		樋笠 勝士（ひかさ かつし）	
ねらい	人間が何かの対象について理性的合理的に考えたことの結果や集積を「思想」と呼ぶとすれば、それは、感性的な活動やその典型としての芸術活動とどのような関係をもっているものであろうか。可能性としては、人間が或る思想を生み出し、思想から芸術が生まれる場合が考えられるが、同時に、芸術現象から一定の思想が誕生することもあるだろう。本講座		
授業計画	【後期】 第1回 授業の見取り図 第2回 「思想」と「哲学」の相違 第3回 「思想」の精神性 第4回 「芸術」の宿命的感性性 第5回 「思想」と「芸術」の相克 第6回 「思想」の現実化としての「芸術」1 第7回 「思想」の現実化としての「芸術」2 第8回 「思想」の現実化としての「芸術」3 第9回 「思想」の現実化としての「芸術」4 第10回 「思想」の現実化としての「芸術」5 第11回 逆現象：「芸術」の現実化としての「思想」1 第12回 逆現象：「芸術」の現実化としての「思想」2 第13回 逆現象：「芸術」の現実化としての「思想」3 第14回 応用研究 第15回 まとめ		
進め方	人数によってはゼミ形式を採用したい。さしあたりは講義形式で進めてゆく。		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	
評価方法	試験:70% 出席点・平常点:30%		

芸術学特講Ⅲ（芸術と心理）		前期 2 単位	1年
両大戦間期の芸術		田中 佳（たなか けい）	
ねらい	エコール・ド・パリを中心に、両大戦間期に活動した芸術家たちの作品と心理、および社会的影響について考察します。芸術家たちの作品と創作への想いを社会的な文脈のなかで理解することを試みます。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 大戦間期の芸術と社会1 第3回 大戦間期の芸術と社会2 第4回 大戦間期の芸術と社会3 第5回 各論1：キュビズム 第6回 各論2：フォーヴィスム 第7回 各論3：モディリアーニ 第8回 展覧会見学 第9回 各論4：ヴァラドン、ユトリロ、ローランサン 第10回 各論5：シャガールとロシア系美術家たち 第11回 各論6：パスキン、キスリング 第12回 各論7：藤田嗣治と日本の芸術家たち 第13回 各論8：彫刻家たち 第14回 各論9：バレエ・リュス 第15回 総括		
進め方	講義、映像、展覧会見学、およびグループによる調査と発表を組み合わせる形で進めていきます。		
テキスト	なし	参考文献	授業中に随時紹介します。
評価方法	平常点:30% 発表:30% 期末レポート:40%		

芸術学特講Ⅳ（芸術と社会）		後期 2 単位	1年
美術館の文化史		田中 佳（たなか けい）	
ねらい	現代の私たちにとって馴染み深い「美術館」という社会システムについて理解を深めます。ヨーロッパとアメリカ、そして日本の主要な美術館を取り上げ、その成り立ちや社会的機能などを歴史的に考察します。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 美術コレクシヨンの形成 第3回 美術アカデミーと展覧会 第4回 美術館の誕生 第5回 ヨーロッパの美術館1：フランス 第6回 ヨーロッパの美術館2：イギリス 第7回 ヨーロッパの美術館3：イタリア 第8回 ヨーロッパの美術館4：スペイン 第9回 ヨーロッパの美術館5：ドイツ 第10回 ヨーロッパの美術館6：ロシア 第11回 美術館見学 第12回 アメリカの美術館 第13回 日本の美術館1 第14回 日本の美術館2 第15回 総括		
進め方	講義、ビデオ、美術館見学、およびグループによる調査と発表を組み合わせることで進めていきます。		
テキスト	なし	参考文献	『週刊世界の美術館』（講談社）、その他、授業中に随時紹介します。
評価方法	平常点：30% 発表：30% 期末レポート：40%		

芸術学特講Ⅴ（芸術と自然）		前期 2 単位	1年
自然との関わりで芸術を考える		中井 章子（なかい あやこ）	
ねらい	「芸術と自然」をめぐる思想を歴史的背景を考慮しつつ理解する。ヨーロッパを中心とするが、中国や日本にもふれる。「自然に学ぶ」とはどのようなことかを考える。		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに 第2回 美術のはじまり～先史時代の美術 第3回 神話における自然と芸術 第4回 キリスト教の自然観 第5回 ギリシアの古代哲学における芸術と自然 第6回 中国の自然哲学と山水画 第7回 ルネサンスにおける自然と芸術～レオナルド・ダ・ヴィンチ 第8回 ヨーロッパ近世における自然と芸術～DVD「オランダの光」を参考として 第9回 ロマン主義自然哲学と芸術 第10回 ロマン主義自然哲学と芸術 第11回 クレーにおける自然と芸術 第12回 クレーにおける自然と芸術 第13回 現代における自然と芸術 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	講義を中心とする。テキストを読んで、自分で「芸術と自然」について考えてほしい。課題について、文章（400字、800字、1200字、2000字など）を書いて提出することが3回以上ある。		
テキスト	コピーを配布する。	参考文献	講義時間中に紹介する。
評価方法	出席、平常点（コメント）：40% レポート（複数回）：30% 試験（レポートにする場合もある）：30%		

卒業研究（論文）		通年 4 単位	2年
美術史論文		大野 芳材（おおの よしき）	
ねらい	美術史の問題を、図像資料や文書資料を用いて、実証的かつ論理的に論文にまとめる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 美術史の論文作成についてのイントロダクション 第2回 文献収集の方法と論文に添付する参考文献について 第3回 文献研究（1） 第4回 文献研究（2） 第5回 美術館見学（1） 第6回 文献研究（3） 第7回 文献研究（4） 第8回 文献研究（5） 第9回 美術館見学（2） 第10回 文献研究（6） 第11回 文献研究（7） 第12回 学生の論文のテーマの発表 第13回 美術館見学（3） 第14回 文献研究（8） 第15回 文献研究（9）	<p>【後期】</p> 第1回 夏休みの成果報告 第2回 論文指導（1） 第3回 論文指導（2） 第4回 論文指導（3） 第5回 論文指導（4） 第6回 論文指導（5） 第7回 論文指導（6） 第8回 論文中間発表 第9回 論文指導（7） 第10回 論文指導（8） 第11回 論文指導（9） 第12回 論文指導（10） 第13回 論文指導（11） 第14回 論文指導（12） 第15回 論文発表	
進め方	前期；参加学生の関心をより具体的にして、論文の作成に備える。そのために、まず幅広く数多くの美術品に、展覧会や書籍を通じて触れることを目標にする。夏季休暇前にテーマをほぼ決めて、参考文献の収集をする。 後期；各自の進度に合わせて、論文の指導。		
テキスト	プリントを配布。	参考文献	各自の論文に応じて、講義で指示。
評価方法	卒業論文：70% 発表点：15% 出席点：15%		

卒業研究（論文）		通年 4 単位	2年
論文題目と卒業論文の提出期限		大野 芳材（おおの よしき） 橋本 典子（はしもと のりこ）	
論文題目 提出期限	2009年10月14日（水）午後4時30分（厳守）		
卒業論文 提出期限	2010年 1月13日（水）午後4時30分（厳守）		
論文枚数	400字詰原稿用紙50枚以上		
提出先	教務課		

卒業研究（論文）		通年 4 単位	2年
卒業研究		橋本 典子（はしもと のりこ）	
ねらい	卒業論文を書き作成することを通して、芸術学科に於ける2年間の自分自身の総合と完成とを行なうことを目標とする。論文のテーマは哲学、美学、個別芸術論、文化論等いづれでも良いが、テーマの決定は、受講者の希望、関心、問題意識等、対話を通して芸術に意味のあることを目指して個別的に行なう。受講者相互の影響を重視する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 序論、卒業研究論文作成の過程説明とその例示提示</p> <p>第2回 論文の分野の確定、論文題目決定準備</p> <p>第3回 論文制作の計画及び文献探索</p> <p>第4回 論文題目の検討、研究ノートの作成指導</p> <p>第5回 文献収集、経過発表、論文計画の立案</p> <p>第6回 文献収集、テキスト購読と解釈、発表1</p> <p>第7回 テキスト購読と解釈、発表2</p> <p>第8回 テキスト購読と解釈、発表3</p> <p>第9回 テキスト購読と解釈、発表4</p> <p>第10回 テキスト購読と解釈、発表5</p> <p>第11回 テキスト購読と解釈、発表6</p> <p>第12回 テキスト購読と解釈、発表7</p> <p>第13回 テキスト購読と解釈、発表8</p> <p>第14回 テキスト購読と解釈、発表9</p> <p>第15回 まとめ、夏休み計画立案</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 論文題目検討、夏休み経過報告</p> <p>第2回 論文題目決定、論文構成発表</p> <p>第3回 資料収集結果報告</p> <p>第4回 論文作成、発表、個人指導1</p> <p>第5回 論文作成、発表、個人指導2</p> <p>第6回 論文作成、発表、個人指導3</p> <p>第7回 論文作成、発表、個人指導4</p> <p>第8回 論文作成、発表、個人指導5</p> <p>第9回 論文作成、注及び参考文献表作成の指導</p> <p>第10回 論文作成、発表、個人指導6</p> <p>第11回 論文作成、発表、個人指導7</p> <p>第12回 論文作成、発表、個人指導8</p> <p>第13回 論文作成、発表、個人指導9</p> <p>第14回 論文研究報告会</p> <p>第15回 論文作成最終進捗</p>	
進め方	文献の解釈や論文の展開の仕方、構成等はそれぞれ個別的に指導する。前期はテーマの決定、そしてその論点を明確にするために広く文献を捜し、読み、解釈して卒業論文ノートを作る。後期はテーマの内容を深めて討論及び指導を重ねて論文を書き進めながら卒業研究を完成する。受講者の授業への主体的参加、積極的取り組みが不可欠である。		
テキスト		参考文献	必要に応じて個別的に指示する。
評価方法	論文:80% 出席、途中経過の報告:20%		

卒業研究（制作）		通年 4 単位	2年
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、趙 慶姫（ちよう きょんひ）、淀井 彩子（よどい あやこ）</p> <p>【ねらい】 構成Ⅱおよび構成Ⅲと連携した科目で、最終的には卒業制作としてまとめ、学年末の卒業展に発表する。</p> <p>【授業内容】 前期は構成Ⅱをより深くつきつめて追究するが、後期からは構成Ⅲと直接的に連携し、習作ではなく発表を考慮した「作品」として完成されたものを制作する。提出作品は、課題作品と自由作品の二種とするが、各専攻ごとの内容は次の通りである。</p> <p><絵画専攻> 課題作品／人物（ダブルポーズ） 油絵80号以上1点。 自由作品／テーマ「人間」 油絵80号以上1点および版画。</p> <p><デザイン専攻> 課題作品／平面S80号以上1点、または立体。 自由作品／平面S80号以上1点、または立体。</p> <p><織専攻> 課題作品／100cm×200cm 1点。 自由作品／70cm×90cm 1点。</p> <p>【進め方】 各専攻ごとにテーマに応じて個別指導のかたちで進める。</p> <p>【評価方法】 学年末に、本学科の全専任教員および全実技系教員による合同講評会を行い総合評価をする。 作品点 50% 出席点 50%</p> <p>【その他】 卒業展での発表は、本科目合格者のみとする。尚、発表作品の選定は合同講評会時に決定する。</p>			